図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉　おしらせ No. 218　　2023・3・29

さくら散る日さへ
　　ゆふべとなりにけり
　　―樗良―

COVID-19 の流行も
そろそろ終息に向かっている気配。
三年ぶりの開放的な季節を
待ちかねたように
桜の花も今年はいつもより早く
咲き始めました。
四月は始まりの季節。
何かをスタートさせる予定の方にも
そうでない方にも
気持ちの良い春が
やって来ますように。

○　CONTENTS　○　　PAGE

☆ 新代表挨拶 ･･･1
☆ 総会報告 ･･･2
☆ バリアフリー学習会参加報告/学習会感想
☆ 市史編纂事業の再開を求める陳情が採択されました ･･･4
☆『図書館をつくろう！-多摩市らしい図書館との協働に向けて
　ー』開催　青木洋子 ･･･5
☆ ファンタスティック☆ライブラリー111 が開催されました！ ･･･6
　おはなしひこうせん×鎌倉市身体障害者福祉協会×布絵本はこべ
　F☆L111 に参加して『間島弟彦・間島愛子夫妻　旌徳の会』 ･･･7
　第 4 回ファンタスティック☆ライブラリー111 実行委員会報告
☆ ファンタスティック☆ライブラリー・111 を振り返って
　鎌倉市中央図書館　山本里佳 ･･･8
☆ 松坡先生をめぐる人々11　間島弟彦・愛子　袴田潤一 ･･･9
☆ 鎌倉エフエム出演報告/タウンニュース取材報告/おなり子ども
　の家完成式典・内覧会速報/司書採用速報/銀幕情報 ･･･10
☆ ボランティア連絡協議会交流会報告/活動日誌 ･･･11
☆ 事務局から ･･･12

新代表挨拶

このたび「TOTOMO」の代表に就任いたしました水岡と申します。このような大役が務まるか心配ではありますが、前代表・元代表のお力もお借りして、私なりに務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

「TOTOMO」との出会いは家庭文庫を開いていた友人のお誘いでした。入会してから暫く参加できない時期もありましたが、本や図書館に関心があり会員として世話人として今も活動を続けさせていただいております。

2023（R5）年は「図書館とともだち・鎌倉」設立 25 周年となります。活動を始めてからもう四半世紀を迎えます。このような区切りの時に代表を務めさせていただくのは本当に気が重いのですが、図書館の応援団としてこの一年皆様とともに活動していきたいと思います。今年度の活動計画の重点事業はどれも「TOTOMO」が大切だと思って活動してきた事業です。さらに取り組むべきことが起きるかもしれませんが、それらを一つ一つ丁寧に進めていきたいと思います。

最後に会員のみなさまのご支援ご協力をお願いして代表挨拶とさせていただきます。　（水岡やす子）

第 25 回総会報告

（1 月 29 日（日）　於：中央図書館　多目的室）

総会次第
1.　2022 年度活動報告
2-1. 2022 年度会計報告
2-2. 2022 年度会計監査報告
3.　2023 年度活動計画
4.　2023 年度予算案
5.　役員選任
6.　自由討議
当日出席者 12 名　委任状 30 名
合計 42 名（前年末会員 104 名）
※総会成立要件：会則 13 により、会員の5分の1以上

図書館とともだち・鎌倉発足の日である 1 月 29 日に、第 25 回会員総会を行いました。開会にあたって、中央図書館の栗原館長がご挨拶にいらしてくださいました。

今回は長年の会員である木村康洋さんが初めて出席されました。木村さんは視覚障害者としての立場から鋭い意見や提案をしてくださり、これまでなかった、或いは不足していた視点を得ることができました。

また今年は 25 周年ですが、記念イベントを開くのではなく、図書館に関する学習会や講演会等を企画することで 25 周年事業とするという提案をし、了承されました。

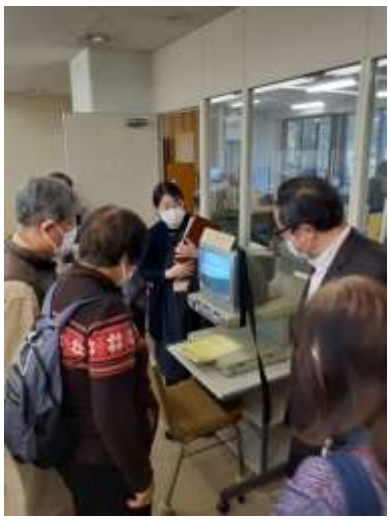
会の代表は 2014 年から 9 年間にわたって和田さんに担っていただきましたが、今年は水岡さんが選出されました。世話人には新たに 2 人が加わり、新体制を支えていきます。今年の世話人は阿曾、阿部、黒瀬、齊木、杉崎、古矢、水岡（代表）、和田（副代表）の 8 名。会計監査は山下、吉田の 2 名です。

（50 音順、敬称略）　（黒瀬聖子）

バリアフリー学習会参加報告

1 月 29 日（日）13 時半～15 時　於：中央図書館３階多目的室

TOTOMO は、F☆L111 参加企画の一つとして、鎌倉市身体障害者福祉協会とのコラボ企画「バリアフリーってなあに？」を行いました。その催しに先駆け、改めて私たちの利用している鎌倉市の図書館ではバリアフリーに関してどのような取り組みをされているのか伺ってみたいと、図書館に学習会を開いていただけないか相談。総会が行なわれた 1 月 29 日の午後、お話を伺うことになりました。


拡大読書器の使い方を説明していただく

鎌倉市図書館が様々な障害者サービスを行っていると知ってはいましたが、今回講師をお願いした担当司書職員の島田さんから、その一つ一つについて丁寧に取り組み方をご講義いただき、改めてその内容の多彩さを知ることができました。

多目的室での座学の他、実際にサービスのための機器も見せていただきました。

「よむべぇ」は本や雑誌を撮影してその場で読み上げてくれる装置。「デイジー（Digital Accessible Information System）」は録音図書。ディスレクシアや視野狭窄の方々のために考案されたという「リーディングトラッカー」は、同じ行を二度読みしてしまったり行を飛ばして読んでしまったりしないように文字列に沿って置いて利用する栞の一種。閲覧室にある拡大読書器も見せていただきました。…いろいろあるのですね。使い方を具体的に教えていただくことで、図書館の障害者サービスの実際がよくわか

りました。LL ブックや点字付き図書、大活字本、布製絵本なども実際に触ってみることができて、楽しく有意義な学習会でした。

中央図書館では、昨年 11 月 24 日から 12 月 27 日まで“言葉を聞き取り文字化する機器(字幕システム）”の実証実験も行われていました。これはまだ実用化されていないようですが、この取り組みも含め、熱心に障害者サービスについて考えておられる鎌倉市図書館のスタッフの方々に敬意を表します。

同時に、そのサービスの存在を、利用対象となる方々はどれだけ知っているだろうか？とも思います。いろんなサービスがあることを知らない人が多いのでは、せっかくのサービスシステムがもったいないではないか！と。

障害のある方、図書館への来館を躊躇している方を含め、図書館の敷居は何だか高めかも…と、感じている方々に「行ってみよう！」と思ってもらい、「利用しやすい図書館であるための取り組み」を広く知ってもらうことは、図書館自身とともに図書館を応援する TOTOMO としても考え続けていくべきことの一つであると再認識した学習会でした。（齊木まき子）

・・・・・・・ 学習会 感想より・・・・・・・・

鎌倉市の障害者サービスの話の前に、「図書館の障害者サービスの動向」をお話くださったのがよかったと思います。読書バリアフリー法が成立したのは 2019 年ですが、そこに至るまでにも様々な道のりがあったことがわかった一方で、このような動きが始まってからまだ日が浅いことも再認識しました。

学習会には、視覚障害者や誘導ボランティアをされている方も出席されました。私たちには気づかない視点からのご質問もあり、大変有意義でした。司書の島田さんは丁寧かつ誠実に考え、お答えくださっていたので、これからの鎌倉市図書館の障害者サービスに希望が持てました。

拡大読書器などの機器も興味深く拝見しましたが、いずれも古くなってきていることが気にかかりました。少ない図書館予算の中での解決は難しいことはよくわかりますから、この現状を、市長はじめ他部署や、広く市民にも知らせていくことが大事なのではないかと感じました。

これからも、当事者も含め、皆で学習し、意見交換する場を持てるとよいと思います。

島田さんのお話は大変参考になりました。

「障害」とは何か、関係する法などがどのように変わってきたのか、図書館における障害者サービスとは何かなどの基本的なことの確認ができて良かったと思います。

「障害」というと個々の人の医学的な障害に目が向いてしまいがちですが、「環境因子」（社会の側が障害者に対して障壁になっている）に目を向けなくてはいけないということ、したがって「障害を持つ人」も施設入所者、病床者、母語が違う人などを含めた広い範囲でとらえなくてはいけないということがよくわかりました。

「障害者」を「障碍者」とか「障がい者」と言い換えたりするのも、個々の人に目を向けすぎていて社会が障害になっているということを逆に軽視する結果になるのではと思ったりもします。

訃報　とともの会員 渡邊紘治さんが 1 月 30 日に逝去されました
渡邊さんは 南足柄市の「図書館応援し隊」初代リーダーとして活躍されました
10 年ほど前に学校図書館大交流会でご一緒したことがきっかけで会員となられ鎌倉にも何度も足を運んでくださいました
とともの活動にご協力くださったことに感謝申し上げるとともに 心よりご冥福をお祈りいたします

市史編纂事業の再開を求める陳情が採択されました

すでに会報でお知らせしたように、市制 100 周年に向けて市史編纂事業に取り組むよう昨年 11 月に市に要望書を提出し、年末に回答書をいただいています。要望書については市長に直接お会いして手渡し、鎌倉市史や他都市の市史を現物で見ていただいたところ、関心をもって手に取っていただけました。

回答書は年末に会の代表宅に直接届けられ、その内容は「まずは市史編さんのあり方について検討を重ねることから進めたい」というものでした。「検討する」という表現にとどまり、もう一歩踏み込んだ具体的な取り組みへの姿勢がうかがえなかったので、今年に入り 2 月議会に陳情することにしました。（添付資料参照）

陳情に向けて教育福祉常任委員会の市議の方を中心に面談し、市史編さんの意義と早急に取り組むべき必要性を訴えました。その際、現物の資料や市史編さん事業のこれまでの流れを年表の形でまとめたものを見ていただくと、やはり大きな関心と賛意を得ることができました。

2 月 6 日に陳情書と意見陳述申込書を議会事務局に提出し、15 日に年表や賛同団体一覧表などの参考資料を提出しました。そして 20 日に開かれた教育福祉常任委員会で水岡代表が意見陳述し、栗原中央図書館長が原局の見解を述べ審議が行われました。そこでの質疑を簡単に紹介します。

議員からは、市史の内容についてこれまでの「近代編」で書かれた以降のことを中心に編さんするのか、それとも歴史をさかのぼって見直すのか、平成 24 年に市長からの補助執行を受けて公文書の選別作業をやっているということだが、市史編さんの構想なしに行っているのか、体制づくりについて教育委員会、図書館中心でやるのか、それとも全庁的に取り組むのか、どういう経過で編さん事業が長期に中断してしまったのかなどの質問が出ました。

これに対して教育文化財部長、中央図書館長からは補助執行としてやっているのは市の行政文書の選別作業が中心で、総務部と打ち合わせをしながら試行的に繰り返してきた、新たな市史編さんの構想やそのための体制づくりについて取り組むに至っていないが、検討すべき段階に来ていると考える、今後市長部局と打ち合わせをしていかないといけないし、補助執行を受けている教育委員会としても発議していきたい、なぜ事業が継続されてこなかったのか文書による確認はできていないというものでした。

この後、陳情の扱いについての議論に入り、これまでの市史も様々に引用され価値の高い文献になっている、100 周年という区切りもあり、資料の散逸を避けるためにも、できるだけ早く体制を整えるべきだ、体制づくりにあたっては若い人も巻き込んで専門家だけに任せるのではなく市民と協働して取り組むべきなどの意見が出され、この場で結論を出すことで意見が一致し、採決の結果、全員賛成で採択となりました。3 月 3 日に開かれた本会議でも全議員の賛成により、陳情は正式に採択されました。

過去に編纂・刊行された「鎌倉市史」(一部)
鎌倉市史は鎌倉市の図書館で閲覧・貸出しできます

TOTOMO は『鎌倉図書館百年史』の編さんや旧鎌倉図書館の保全運動への取り組みを通じてわが町の歴史を知ることと、それをみんなで共有することの大切さを学びました。今後も市の動きを見守りながら、よき新鎌倉市史ができるよう活動を継続していきたいと考えています。(和田安弘)

「多摩市に中央図書館をつくる会」の方々は、２３年前から中央図書館をつくるための活動をされてきました。図書館づくりに市民協働の観点は大変重要です。これまでにも多摩市立図書館とは密な関係を築いてこられましたが、この大きな変化の時に改めて市民協働を考えるための講座を開かれ、第１回には当会代表（当時）の和田を講師としてお招きくださいました。

講座の報告を、第２回の内容と合わせて同会の青木洋子さんにご寄稿いただきました。

連続講座『市民の図書館をつくろう！―多摩市らしい図書館との協働に向けて―』開催

第１回　１月22日「図書館とともだち・鎌倉」から市民協働の姿を学ぶ　講師：和田安弘氏

第２回　２月　５日「新しい市民協働に向けてみんなで話そう」　講師：森下芳則氏

多摩市に中央図書館をつくる会　青木洋子

多摩市は念願の中央図書館が今年７月１日に開館する予定です。図書館は今年50周年ですが、今までの図書館が果してきた歴史の上に、未来に向けて「市民の図書館」としてつないでいくことが願いです。

そこで、第１回は市民協働について学びながら考えるために、100年の歴史を持つ図書館と市民協働を模索してきた「図書館とともだち・鎌倉」からお知恵を拝借しようと、前半は代表の和田安弘さんからどのように協働してきたかをお話しいただきました。後半はシンポジウム形式で、再度和田さんに質問に答えていただき、多摩市立図書館長から図書館計画と市民協働の考え方を、助言者として森下芳則氏に協働の様々な形をお話しいただきました。

和田さんのお話しは今までやってきた自分たちの活動と共感することが多く、最後のまとめで仰った会の特徴として、第一に思うようにことが進まなくてもあきらめず「今やれることはすべてやる」、第二に自分たちだけで頑張ろうとせず、様々な人たちとの連携・協力関係をつくる、第三にわかりやすさを心掛ける、第四に中心メンバー相互のコミュニケーションを大事にという示唆は、これからの活動に生かしていきたいと思います。同行してくださった黒瀬聖子さんにも質問に答えていただきながら、「おはなしひこうせん」の活動の様子を伺い、とても参考になりました。

第２回は森下さんに再度お越しいただき、「ふたつの市民協働～図書館と市民の永続するキャッチボール」というタイトルで、多くの資料をもとに整理してお話しいただき、みんなで話す前に理解を深めることができました。

①ボランティア　定義も重要、図書館員が行う業務とボランティアができることを話し合って確認し合うこと、業務支援にとどまるものではない。

②アドボカシー　多くの自治体で財政事情、老朽化で公共施設が委託、廃館の動きがあるが、地域における図書館の重要性、理念を訴え、図書館振興のための活動（アドボカシー）の重要性に気付く。

この２つの考え方を学んだ後に、後半は４つのグループに分かれてどんな市民協働がしたいか、それをするには図書館に何を要望するか、自分は何ができるかを話し合い、最後に発表して確認をしました。参加者の感想として、図書館が期待している協働と市民が希望している協働には微妙にずれがあることがわかり、これからそれを埋めていくには継続した話し合いが必要だと感じました。

最後になりますが、鎌倉の皆様に遠くまで足を運んでいただき、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

ファンタスティック☆ライブラリー111 が開催されました！

おはなしひこうせん×鎌倉市身体障害者福祉協会×布絵本はこべ

（2 月 4 日　於：深沢学習センター）

おはなしひこうせんの今年のテーマは「バリアフリーってなあに？」。

令和元年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が制定され、誰もが利用しやすい図書館を目指すことが、図書館の大きな課題となっています。そこで、ひこうせんでもバリアフリーをテーマに絵本の勉強会を続け、各人が小テーマでパネルを作成しました。パネルは８枚。

「バリアフリーってなあに？」展示パネル

- **「インクルーシブルって知っていますか」**
- **「絵本で考えるこころのバリアフリー」**
- **「LD って何？ディスレクシアって何？」**
- **「紙芝居はバリアフリーツール」**
- **「手話って、なあに？」**
- **「点字ってなあに？」**
- **「バリアフリーのために活躍する犬たち」**
- **「読み聞かせって、バリアフリーだね」**

布絵本・布おもちゃの展示

テーマに関する絵本や紙芝居も図書館に用意していただき、一緒に展示しました。３年ぶりのリアル開催で嬉しかったのは、おはなし会を午前午後と２回できたことです。また、かまくら布絵本グループはこべさんの協力で布絵本や布おもちゃの展示もでき、会場は一気に楽しい雰囲気となりました。そして、残念ながら会場は別室となりましたが、鎌倉市身体障害者福祉協会さんが「読むことをあきらめていませんか？」をテーマに 読書機器（拡大読書器〈（株）ビジョンサポート協力〉・プレクストーク等）の体験会 や点字・誘導体験を行いました。実際に体験することで、リアルにバリアフリーを感じることができ、大変有意義な内容となりました。読むことが不自由な方向けに作られた機器は、高齢者に差し掛かった私たちにも便利な優れた機器であることを実感しました。もっとたくさんの方にも体験していただきたかったです。

手作りの手袋人形パフォーマンスでおはなし会が始まります！

マルチメディア DAISY（（文字や音声、画像を同時に再生できる録音図書））の体験もしました。

今回会場が１か所にまとまったことで、他のグループの充実した展示やギャラリートークにも参加することができ、皆さんと交流できたこともとても楽しかったです。次はむこうでギャラリートーク！体験もしたい！と大忙しで、時間がぜんぜん足りず、あっという間の１日でした。皆様ありがとうございました。お疲れ様でした！また来年！　（松本陽子）

※「かまくら布絵本グループはこべ」さんの布絵本布おもちゃは、中央図書館となりの社会福祉協議会で借りられます（個人貸出も可）

Ｆ☆Ｌ１１１に参加して『間島弟彦・間島愛子夫妻　旌徳の会』

「あらためて間島弟彦・間島愛子夫妻に学ぶ」展示パネル

令和５年３月末旧図書館の修復完成を控え『旧図書館修復なる！あらためて間島弟彦・間島愛子夫妻に学ぶ』と題してパネル展示を行いました。

鎌倉に図書館を建てるため多額の寄附金や多くの本を寄贈して下さった間島弟彦氏、間島愛子氏の略歴や功績を凝縮した紹介文と写真などのパネル１枚、間島愛子歌集より愛子氏が書かれた色紙絵を３枚拡大写真にして展示しました。色紙のうち１枚は白水荘の庭の風景画（昭和 12 年画）で田辺松坡による漢詩の賛が添えられています。『間島弟彦集』（鎌倉中央図書館・複写）『小伝間島弟彦』（青山学院）、『間島弟彦生誕 150 年展』図録（国宝館）、歌人であり両氏の師であった佐佐木信綱の記念館特別記念展で愛子氏の手紙が掲載されている『特別展図録』（平成 22 年度佐佐木信綱記念館・複写）を手にとってもらいやすいように並べ、持ち帰り資料も用意しました。

色紙の漢詩はおいそれとは読めず同会場で開かれている《松坡文庫研究会》の代表袴田潤一氏に読み下し・語釈をお願いしました。長い間気になっていた文字・内容が判明してホッとしました。弟彦・愛子夫妻と田辺松坡との深い交友関係を物語る証の一つでもあると思います。

お二人特に愛子氏の事ととなりますとわからないことばかりです。会員の皆で僅かな手がかりを基に手繰り寄せ何か一つでも見出せたらとあれこれ模索している日々です。

令和５年３月、旧図書館の修復が完成し４月から『放課後子どもひろばおなり・おなり子どもの家「こばと」』として利用されることになりました。図書館としてではなく子どもの家として利用されますが、使用目的が異なるとはいえ建物が保存され有効活用されることは嬉しいことです。利用する子どもたちや家族、施設に関わる人たち、街行く人たちにこの建物の由来を知っていただき、末永く愛される事を願っています。　　（阿部光世）

来場の方々から伺ったご感想を幾つか紹介します

◇図書館が在ったことは知っていたが建てた人は知らなかった。
◇最近前を通ったが、思ったより大きいですね。
◇石碑は大きすぎるし書かれている文字が読めない(のが残念)。
◇旧図書館へ行った事があるよ。
◇展示物を見ていろんな話が出来てよかった。

第４回ファンタスティック☆ライブラリー１１１実行委員会報告

（3 月 9 日　於：中央図書館多目的室）

今年度最後の実行委員会が三団体７名と図書館員３名の参加で行われ、各団体の報告と反省点を話し合いました。２月４日に深沢学習センターで３年ぶりに一堂に会して開催したファンタスティック☆ライブラリー111 は無事終了し、２月７日からパネルの巡回展示と図書館のＨＰでの公開を行いました。

今回は、ひとつのフロアで開催したので、他団体の活動を見聞きし、交流ができ実り多いイベントとなりました。また、鎌倉市身体障害者福祉協会とのコラボ企画ができたことは今後につながるものでした。反省点としては、事前の広報や当日の誘導が足らなかったためか一般の参加者が少なかったこと、準備や片づけでの手順の説明が足りず混乱があったことがあげられました。

来年度１回目の実行委員会は４月 27 日（木）14 時から中央図書館で行うことになりました。とともからは、阿曾（松坡文庫研究会兼務）、阿部、松本、水岡、杉崎が参加しました。　　（杉崎敦子）

ファンタスティック☆ライブラリー・１１１ を振り返って

鎌倉市中央図書館　山本里佳

令和５年（2023 年）２月、３年ぶりにリアルでファンタスティック☆ライブラリー・111 を開催することができました。皆さまのご協力を心より感謝しております。

TOTOMO 以外の
Ｆ☆Ｌの活動をご紹介します

図書館司書さんによる紙芝居
「鎌倉玉縄のちょっと昔のお話し」

松坡文庫研究会「『鎌倉風景拾二帖』をよむ」

かまくら女性史の会「かまくらの保育Ⅱ」

近年はファンタスティック☆ライブラリー期間に参加団体が各々イベントを行う形式で実施していたため、「まつり」として一体感に欠けることが課題となり、新しい方法を模索していました。そんな中、コロナ禍となり集会形式での開催が叶わず、令和２年（2020 年）から２年間、巡回展示を実施してきました。この間も研究成果を伝えるため YouTube 動画に挑戦するなど、リアルな図書館とホームページを通じて、ファンタスティック☆ライブラリーを伝える活動をしてきました。時間や場所に限られない web 公開は、好きな時に楽しめるのが良い点だと感じます。

とは言え、１年に一度きりの発表の機会ですから、研究者が発表に込めた思いを直に伝えたり、来場者とやりとりしたりできるリアルな場の復活も切望されていました。

当日は参加した３団体による６つの展示とあわせ、発表を楽しみにいらした方、図書館に立ち寄られた後にいらしたご家族など多くの方が来場され、ギャラリートーク、朗読、おはなし会、紙芝居などのイベントはどの回もにぎわっていました。また、とともさんと鎌倉市身体障害者福祉協会とのコラボ企画では、DAISY や拡大読書器など視覚障害のある方が使われる機器を実際に体験して、私自身も障害者サービスについて考えるきっかけにもなりました。会場内で来場者同士が語り合う姿や、立ち止まって熱心に展示に見入る姿を見ると、リアルに集まって実施できたことを嬉しく感じました。

参加団体の皆さまも久しぶりに顔を合わせ、同じ時間を共有することでつながりが深められたと感じています。当日は私たちも朝の準備から夕方の片付けまで、ともに行事を支えていただいた皆さまと、図書館でつながる楽しいひとときを過ごし無事に終わることができました。来年もさらに多くの方々に参加してもらえるよう、魅力あるイベントづくりを目指しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

◎ファンタスティック☆ライブラリー１１１開催後、各団体の展示パネルは鎌倉市の図書館５館で巡回展示されました。

松坡先生をめぐる人々１１　間島弟彦・愛子

松坡文庫研究会　代表　袴田潤一

間島君旌徳碑

旧鎌倉図書館の改修工事が終わり、「放課後かまくらっ子おなり新施設」として生まれ変わりました。間島弟彦・愛子夫妻の志が途切れることなく鎌倉市民の中に受け継がれたことになります。

新施設の脇、御成小学校正門を入って右に高さ 3.2m、幅 1.4m にも及ぶ大きな碑があります。題額部分には白滝幾之助（いくのすけ）による間島弟彦の肖像レリーフ、碑題は「間島君旌徳（せいとく）碑　正四位勲二等　荒川巳次（みのじ）題」とあり、500 字に垂んとする碑文が続き、その末尾には「昭和十一年三月　松坡　田邊新撰并書」。碑文中に「圖書館建築の功竣（おわ）らんとす鎌倉町は町會の決議に隨ひ碑を館側に建て君の徳を紀（しる）して石に勒し之を不朽にせんとし文を余に囑せらる」とあり、建碑の経緯が知られます。

間島弟彦（1871～1928）は旧名古屋藩士間島冬道の七男として生まれ、学習院・青山学院に学んだ後、アメリカに遊学。帰国後は十五銀行、次いで三井銀行に勤め、英米視察を経て横浜支店、大阪支店長を歴任し、1918（大正 7）年には取締役に就任しました。一方、1918 年末から 1922 年まで母校青山学院校友会会長を務めました（1924 年に同学院理事）。病気のために三井銀行を辞したのが 1923（大正 12）年、薬石甲斐なく亡くなったのが 1928（昭和 3）年 3 月 21 日、享年 58 でした。

弟彦と鎌倉との関係は明治末から鎌倉に別荘を営んだことによります。弟彦は最初由比ガ浜に住み、大正 7、8 年頃（1918、19 年頃）から、あらたに小町葛西ヶ谷に別荘を設け「白水荘」と名付けました。和歌に秀で、絵画や謡曲にも長じた弟彦は鎌倉同人会に入会し、鎌倉の街づくりに貢献します。連載第 9 回で紹介した陸奥廣吉による『鎌倉同人會に就て』には弟彦が鎌倉の海岸清掃の事業に寄付したこと、郵便局建設に尽力したことなどが詳細に記されています。同人会でのそうした活動を通じて弟彦と松坡先生の交友が始まったのでしょう。弟彦が青山学院校友会会長として教育事業にもかかわっていたこと、歌人でもあったことが松坡先生との仲を親密なものにしたと思われます。

弟彦個人としての鎌倉への貢献は、関東大震災で倒壊した扇ヶ谷英勝寺山門の部材を引き取り、二千円を費やして白水荘内に再建したことです。2011（平成 23）年に英勝寺で山門が復興されたのは記憶に新しいところです。

また、弟彦没後のことですが、妻でやはり歌人でもあった愛子が弟彦名義で鎌倉町に 1 万 3 千円余の寄付を行い、旧鎌倉図書館が完成したことや、鎌倉国宝館建設費用等に 6 万 5 千円という多額の寄付がなされたこと、鎌倉第一小学校、鎌倉第二小学校、鎌倉高等女学校などの教育施設に弟彦名義で寄付がなされたことは、鎌倉市民が長く記憶に留めておくべきことです。図書館建設への貢献を顕彰する碑が建てられたことは冒頭で述べた通りです。

東洋英和女学校、清流女学校（名古屋）で学んだ愛子は和歌を佐佐木信綱に学び、『心の花』に多くの作を発表しています。海上寿子の亀廼舎（かめのや）でも活躍し、絵画・音楽など趣味は豊かで鎌倉の文化人と幅広く交際しました。松坡先生をまとめ役とする鎌倉の文化人サロンともいうべき「鎌山（れんざん）」同人でもありました。

弟彦没後、その墓誌を松坡先生に依頼したのは愛子の意思に違いありません。青山墓地の間島弟彦の墓には松坡先生自身の書で 300 字余に及ぶ墓誌が刻まれています。松坡先生にとって弟彦は墓誌に記されるように「好文藝尤長和歌兼善書晩習畫　文芸を好み、尤も和歌に長じ、兼ねて書を善くし、晩（おそ）くには画を習う」人だったのです。

♪鎌倉エフエムにゲスト出演しました♪

3 月 16 日(木)、鎌倉エフエム「鎌倉シーサイドステーション」にお招きいただきました。毎月第 3 木曜日に放送されている「Welfare life」コーナーです。これは鎌倉市身体障害者福祉協会さんのコーナーで、会長の木村さんがゲストとして毎回出演されています。そこに鎌倉のボランティア団体が順に呼んでいただいているのです。

会の成り立ち、日頃の活動、これまでにやってきたこと、今取り組んでいること、そしてリスナーの皆さんに伝えたいことなどをお話ししました。伝えることの難しさを感じた 10 分間でしたが、この機会をくださった鎌倉エフエムさん、鎌倉市社会福祉協議会の担当職員さん、フォローしてくださった木村さん、ありがとうございました。 (黒瀬聖子)

取材風景(NPO センター鎌倉にて)

3 月 15 日(水)、TOTOMO 発起人の一人である・阿曾千代子がタウンニュース紙の取材を受けました。私たちの市史編纂陳情活動に関心を寄せてくださったことがきっかけでしたが、当日は TOTOMO が生まれた理由、活動の歴史、現在の状況など、居合わせた世話人も交えていろいろなお話をしました。

この記事「図書館通じてまちづくり」は 3 月 17 日発行のタウンニュース№894「人物風土記」に掲載されています。

タウンニュース鎌倉版は毎週金曜日発行。地域の情報誌として鎌倉市の図書館でバックナンバーが閲覧できます。

8 年に及ぶ年月を経て旧鎌倉図書館が「放課後かまくらっ子おなり・おなり子どもの家「こばと」」に生まれ変わりました。3 月 21 日、完成式典と内覧会が行われ、旧図書館建物の保存を提唱してきた TOTOMO、鎌倉文化の森さん各代表は式典にご招待いただき出席しました。TOTOMO メンバーは内覧会への招待を受け建物内部を見学してきました(参加 7 名)。詳報は次回会報で報告いたします。

私たちTOTOMOが長年にわたり鎌倉市に要望してきた「図書館に司書の正規職員新規採用を」の取り組みは、皆様の署名等のご協力のおかげで一昨年議会で採択され、今年度 30 年ぶりに技術職として司書新規採用が決まりました。採用者は 2 名。新年度 4 月からは、新しい司書さんと図書館で会えるはず。今後も司書採用が続けて行われることを見守っていきましょう。

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081）　於：鎌倉芸術館小ホール

4/１０（月）『キュリー夫人 天才科学者の愛と情熱』

4/ 24（月）『メタモルフォーゼの縁側』　　5/８ （月）『ルイス・ウェイン 生涯愛した妻とネコ』

◎前売り券：1000 円（当日券：1300 円）　◎上映時間①11：00～ ②14：00～

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館（0467-48-5500）へお問い合わせください。

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます

ボランティア連絡協議会交流会報告

（2 月 16 日（木）　於：福祉センターボランティア活動室）

今年も会場等の都合で 1 月に新年会を行うことができなかったため、2 月委員会を交流会として、小規模ながら多彩な内容のものとしました。

最初は株式会社青葉ギフトさんによるデジタルギフトについてのミニ講習会です。デジタルギフト自体は 20 年ほど前から普及し始め、結婚式の引き出物などにも使われるようになっています。青葉ギフトさんはそれを福祉施設などとつなげることで手軽に社会貢献できるようにしたのです。

アルペなんみんセンター漆原氏のお話

全員に 500 円相当のギフトカードが配られ、そこにある QR コードを読み取ります。そして表示された画面からいくつかの福祉作業所で作られた製品を選ぶという手順です。慣れない作業に困惑ムードが漂いましたが、スマホを操作するうちに要領がつかめた人、質問して理解できた人、様々でした。

次はミニ研修会です。十二所にあるアルペなんみんセンターの漆原比呂志氏による「多文化共生のお話」でした。

鎌倉には 50 年前から難民受け入れの活動をしていた方がいらしたことを知り、誇らしく思いました。その一方で、現在の日本の難民受け入れ状況は情けない限り。それらを踏まえて鎌倉市の取り組みやアルペなんみんセンターの活動状況を伺いました。知ることから始め、さらに一歩踏み出せたら良いな、と思えた研修会でした。

終了後は福祉作業所はまなみさんのパンの販売と、ボラ協役員によるスマホミニ講習会。先に講習のあったデジタルギフトの疑問に始まり、その他の操作まで、数名の方からの相談に、スマホ操作に明るい役員が対応しました。

スマホミニ講習会は今後も続けます。お悩み全てを必ず解決します、とはお約束できませんが、何をどう聞いたらよいかわからない、誰に聞いたらよいかわからないという方々と一緒に悩むことはできます。盛りだくさんでしたが混乱もなく、楽しく交流できた一日でした。　（黒瀬聖子）

◇ ◇

ＴＯＴＯＭＯ活動日誌（1/19～3/29）

1/19　おはなしひこうせん勉強会
1/22　多摩市学習会参加
1/29　2022 年度会員総会
1/29　バリアフリー学習会
2/1　間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会
2/4　ﾌｧﾝﾀｽﾃｨｯｸ☆ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ 111
2/6　市史編さんに関する陳情書提出
2/7～3/12　ﾌｧﾝﾀｽﾃｨｯｸ☆ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ 111 巡回展示
2/16　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ連絡協議会交流会出席
2/20　市史編さんに関する意見陳述
2/24　読書会
2/27　図書館協議会傍聴
3/2　ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ絵本ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰユニリーフ見学
3/9　ﾌｧﾝﾀｽﾃｨｯｸ☆ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ 111 実行委員会出席
3/15　タウンニュースより取材
3/16　おはなしひこうせん勉強会
3/16　鎌倉エフエム出演
3/21　放課後かまくらっ子おなり新施設内覧会
2/9、3/9　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ連絡協議会役員会出席
1/19、2/17、3/17　協働事業推進部会出席
ロビー活動　随時
定例会 10 回（1/25, 2/1, 8, 15, 22, 3/1, 8, 15, 22, 29）

◇ ◇

TOTOMO COMING NEXT！　事務局からのお知らせ

雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、春の節気名には生命の息吹きを感じます。
コロナと花粉の対策をしながら、鎌倉の春を楽しみましょう。

TOTOMO２５周年記念事業　連続講座 これからの鎌倉の図書館にのぞむこと
～　公共図書館の存在意義を確認し、共有し、これからの図書館を構想する　～

第１回　講師：森下芳則さん（元愛知県田原市図書館長）
日時：４月１０日（月）１４時～１７時　　場所：鎌倉市福祉センター２階
公共図書館の基本的な役割や望ましい在り方についてお話しいただき、質疑応答や意見交換を行います。

第２回　講師：太田剛さん（「図書館と地域をむすぶ協議会」チーフディレクター）
日時：４月１８日（火）１４時～１７時　　場所：鎌倉市中央図書館３階多目的室
全国の図書館新館建設の状況を紹介していただき、図書館が要となる街づくりにむけた新しいビジネスモデルの実践についてお話を聞きます。

※申し込み方法などの詳細は、添付のチラシをご覧ください。
お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX　０４６７－４５－５７３１）まで。

おはなしひこうせん勉強会

日　時：４月２０日（木）１０時～１２時　　場　所：鎌倉市福祉センター
テーマ：グリーン　春から初夏にかけて緑があふれる季節です。おすすめの絵本や紙芝居をご紹介ください。
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX　０４６７－２２－８５４５）まで。

読　書　会

日　時：４月２８日（金）１１時～１２時半　　場　所：ＮＰＯセンター鎌倉
テーマ本：向田邦子著/向田和子編『向田邦子ベスト・エッセイ』（ちくま文庫）と牟田都子著『文にあたる』（亜紀書房）です。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX ０４６７-４１-４９５６）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻　旌徳の会

日　時：４月５日（水）１３時半～１６時半　　場　所：ＮＰＯセンター大船
お問い合わせは、鈴木（TEL　０９０－４７２８－５２４２）まで。

☆図書館友の会全国連絡会

5 月 29 日（月）日本図書館協会にて開催する総会に向け、各プロジェクト班による資料作成など準備が進められています。また、同時期に行う国への要請行動についても様々議論しているところです。
お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。

編集後記　＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

☆Ｆ☆Ｌの報告はいかがでしたか。準備段階からバリアフリーについていろいろ考えたＦ☆Ｌでした。すべての人が安心して生活できる世の中になるといいですね。(A.S)

☆今号には、多摩市の図書館応援団体の方からのご寄稿をいただきました。「市民の図書館」のために熱心に取り組んでいらっしゃる姿勢に敬意を表したく思いました。(M.S)

題字・巻末カット：小島寅雄　　2023 年 3 月 29 日発行
図書館とともだち・鎌倉（代表：水岡やす子）　編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005　鎌倉市雪ノ下 1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545
ＨＰ：http://totomo.sakura.ne.jp　E-mail:toshokantomodachi@gmail.com